



The Japan Society of Archives Institutions Kinki District
Branch Bulletin

全史料協近畿部会会報デジタル版

No.91

2025.3.17 ONLINE ISSN 2433-3204

令和6年度 オープンソースのデジタルアーカイブ システム AtoM 実習

入門実習 2024年（令和6）12月14日（土）

実践実習 2024年（令和6）12月21日（土）

会場：近畿大学東大阪キャンパス

AtoM 実習実施報告

辻川敦（全史料協会会長／あまがさきアーカイブズ）

2024年度も、例年に引き続き近畿大学東大阪キャンパス内のPCルームの会場をお借りして、特定非営利活動法人記録と表現のメディアのための組織（NPO法人remo）の櫻田和也氏を講師として近畿部会 AtoM 実習を実施しました。

12月14日の入門実習に9人が参加し、事務局が用意したサンプルデータを使ってAtoMの操作を体験。21日の実践実習には7人が参加し、各自が持ち寄る目録データや画像データの登録を実施しました。両方の回に参加して、実践実習時には事務局が用意する「AtoM_Kansai 作製 AtoM アップロード用データシート」を使いこなしてデータの一括アップロードにチャレンジする参加者もありました。また、実習時に参加者から出された質問課題に講師や事務局がその場で対応することで設定・操作上の新たな知見が得られるといった成果もありました。

なお、今年度から、全史料協の親会予算により通年でremoが運用するAtoMの利用が可能となりました。

<https://atom.log.osaka/index.php/repository/browse>

すでに AtoM 実習を経験されているなど自身で操作できることが前提となりますが、会員が登録・掲載を試行的にも体験してみたいと考えるデータを登録することも可能です。ご希望の方は親会事務局 (Mail : secretariat@jsai.jp) までお申し出ください。「AtoM_Kansai 作製 AtoM アップロード用データシート」の提供を希望される場合も、同じメアドまでご相談ください。

また、親会では 2026 年の全史料協設立 50 周年記念事業を現在検討中であり、事業案のひとつとして AtoM の活用も候補にあがっています。AtoM 活用策の具体化についても、ぜひ近畿部会と連携して取り組んでいきたいと考えています。

実習参加記

新宮由真 (市立伊丹ミュージアム)

2024 年 12 月 14 日 (土曜日)、近畿大学において AtoM 入門実習に参加した。

恥ずかしながら、AtoM なるものの存在をこの度の入門実習を通して初めて知った。日程の都合上、次の週に実施された実践実習には参加できなかったが、AtoM の概要と今後の展望、また操作感のあらまはつかむことができたと思う。

研修用のダミーかつまだ試行的なものであるとのことではあったが、実際に AtoM の管理画面に入り、櫻田和也先生のご説明を受けながら操作してみて、「意外と扱いやすい」という印象を受けた。ただ、基本的に一階層しかない収蔵品データベースを使用している身としては、AtoM はツリーの数が多く、やや複雑に感じた。単純な操作性の話だけではなく、階層の考え方についてもある。これに関しては、単純に私の理解不足と知識・能力不足も関係していると思うので、むしろ個人が AtoM を使用することこそがアーカイブ能力の向上につながるのではとも考えられる。

現在、諸機関ごとに異なる目録の項目が横溢しているであろうが、もし AtoM が国内でも一般的になり、各文書館や博物館・図書館等が使用するようになれば、国内のデジタルアーカイブ水準は全体的に底上げされるように思う。今後の展開に期待したい。